

八千代市

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

事例集



【事例1】アプローチカリキュラム

5歳児 5月 「どうぶつえんを作ろう」

ねらい 「身近な素材や用具を使い表現し、友だちと話し合いながら一緒に活動することを楽しむ」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 協同性、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、豊かな感性と表現

【これまでの子どもの姿】

- ・ 廃材を使った制作に興味を持ち、イメージしながら制作を楽しんでいる。
- ・ 自分が経験したことを、保育者や友だちに伝え、共有する姿がある。

【子ども理解】

- ・ 身近な廃材を選び、制作を楽しむ経験を重ねてきている。
- ・ 自分が表現したものを、他の人とも共有したい。

【保育者の願い】

- ・ 一人一人が取り組んでいることを、クラスみんなで共有してほしい。
- ・ 自分だけでなく、他児とも思いを共有し、作り上げた達成感や喜びを味わってほしい。

【環境構成】

- ・ 子ども理解をもとに考えた環境構成（図鑑、近隣の水族館へ行って観察、廃材の準備、制作に必要な教材の準備）

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

動物への興味・関心「動物をつくってみよう」

- ・ 廃材を利用した動物づくりが広がる。
- ・ 自分で調べ、興味のあることに取り組めるよう、図鑑や、材料を用意し、自由に使えるように準備する。子どもから要望のあるものを一緒に探したり、必要に応じて共に考えたりする。

【きっかけ・芽生え】

- ・ 廃材を使った動物づくりが盛り上がる姿がある。特に危険生物が面白いようで、図鑑を見て「これは危険、毒があるから！」「ヘビは身を守るために丸まるんだよ。」など、気付いたことや知ったことを話し、図鑑の写真を見ながら友だちと協力して（パーツを分担して）制作を楽しむ。



遊びへの没頭期（十日目・二十日間）

興味を膨らませる「詳しく知りたい！」

- ・ 図鑑で調べたり、動物園には何があるかなど、話し合いの時間を設ける。
- ・ 身近な商業施設の水族館へ出向き、興味が膨らむようにする。
- ・ 制作途中には、上手く表現され、子どもの気づきに共感する。
- ・ 遊び込むことができる時間や環境の保障。

【展開・探究】

- ・ 「どうぶつえんごっこしたいね」という声から、「水族館に行って調べよう！」と出掛け、動物園に必要な事を子どもたちなりに調べる。
- ・ 動物について図鑑で特徴や大きさを調べたり、写真を貼ったり、保育者に文字を覚えてもらいながら案内板を作るなど、期待が高まる。



話し合い「本物の動物園はこうだったよ」

- ・動物づくりが形になってきたため、動物園をどの場所でやりたいか問いかける。
- ・子どもの目線で、どのような気づきがあるか見守り、クラスで共有できるように、様々な意見を尊重する。

【発展・広がり】

・「らいおん組がいいよね。」「でも、狭いよ。」「赤ちゃんも来るよ。」などの意見や「ほかのクラスのお友だちを招待したい」「動物園にはチケット係がいるよ」などの提案から、動物園の仕事を考え、役割(チケット・エサやり・掃除・案内・カメラマン)を決めていく。



満足感期待感「いろんな人に見てもらいたい」

- ・遊びの振り返り、話す場・聞く場の設定→見てくれた人からの感想を聞き、伝えあう場面を大切にする。
- ・今後の活動に期待がもてるような関わり→移動・配置・撤収なども子どもと相談・分担し、今後の活動に期待がもてるようにする。

【振り返り】

・役割を決め、他クラスの友だちに見てもらい、「みんなに見てもらうのが楽しみで仕方なかった。」と自信をもって紹介していた。
・「たのしかったね」「みんなびっくりしてた」と満足そうな顔を見せ、「もっといろいろな人に見てもらいたい」との声から、クラスから玄関ホールに作品を移動し展示コーナーを作る。さらに一週間程展示し、「またやりたいね」と次への期待感を持っていた。



振り返り期

【省察】

数人が取り組んでいた廃材制作から、動物について調べている様子に周囲の子が興味を持ち始め、クラス全体に広がっていききました。興味が続かない子も、道具づくりや装飾づくりを見たり、一緒に作ったりしていくうちに動物園への期待が膨らみ、クラス全体で興味、関心が高まっていたように思います。

自分で調べたものを表現し、友だちと工夫した所を伝え合い、保育者に共感してもらおう中で、喜びや自信に繋がっていく様子を見て、こちらも嬉しく思いました。

また、動物園を完成させた後、楽しんでもらうための話し合いを重ねていきました。当日は、他のクラスの友だちがお客さんになり、自分たちが作った作品に興味を持って、嬉しそうにする姿を見て、自分たちの遊びに満足し、達成感を味わっていたように思います。



【小学校の先生の気付き】

子どもたちの思いを大切に、実現しやすい環境を整えているところが良いですね。こうした環境があるからこそ、進んで調べて文字を獲得したり、友達に共感したりしてもらう姿が生まれていますね！

遊びの中で、子どもたち自身が必要感を感じて、文字を書いたり、大きさを表す単位に触れたりすることは、自然と数量や文字への関心・感覚が高まっていくのでとても良いですね！



【事例2】アプローチカリキュラム

5歳児 1月 「ショーをしようよ！」

ねらい 「表現する楽しさや面白さを感じ、自信につなげていく」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の表れ 豊かな感性と表現、自立心、協同性

【これまでの子どもの姿】

- ・クラスの多くがトレーシングペーパーを使って写し絵や塗り絵を楽しんでいる。
- ・人前で発表したり、体操や表現遊びをしたりすることが苦手な男児A。見ていることが多かったが、製作は好き。大好きなトストーリーを写した絵をハサミで切り抜いていた。

【子ども理解】

- ・写し絵や塗り絵を楽しめる子が多く、室内遊びの中で自分で好きな柄を選んで取り組んでいた。普段から描いたものを切ったり貼ったりして遊びに取り入れている姿があったため、遊びが発展していくと予想する。

【保育者の願い】

- ・指先の巧緻性を高めたり、好きなことに取り組む中で、満足感や達成感、表現する楽しさを味わってほしい。

【環境構成】

- ・子どもたちの遊びが広がっていくように、子ども達の手の届くところに厚紙や菓子の空き箱、割りばしなど素材や材料を用意しておく。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

きっかけ 「写し絵をペーパーサートにしちゃおう」

- ・トレーシングペーパーを準備し、普段から写し絵ができるような環境を作っていた。

- ・子ども達の興味や好きな絵や塗り絵を、子ども達が持ちやすいように、本屋に置き、身に着けるようにしていった。

【きっかけ・芽生え】

- ・普段から写し絵を楽しむ姿があり、大好きなトストーリーのキャラクターを何個も写して描き始めた。切ったものを割りばしに付けたりペーパーサートになるかもと1つ作ってみると、男児Aは目を輝かせ、他のものにも付け、カブいっぱい作っていく。それを見ていた他の子も「おんなじの作りたい！」とペーパーサート作りが始まる。



遊びの広がり

「ショーをする役とお客さん役になろう！」

- ・演じる側とお客さん役になれるように空間作りをする。

- ・ペーパーサートを動かしながら主役歌を口ずさむ姿がある。

- ・遊びが広がっていくように背景作りを促してみたり、音楽などの援助を行う。

【展開・探究】

- ・最初は作ったペーパーサートを、テーブルの縁を歩かせたり曲に合わせて動かしていた。棚を動かし環境を整えると「ショーにしようよ！」と声があがる。背景も作り、自然と演じ手とお客さんに分かれる。「先生音楽かけて！」と男児Aが言い、トストーリーの主題歌「きみはともだち」を流すと、歌に合わせてペーパーサートを動かし始める。



遊びへの没頭期（三十日間）

遊びの深まり

「もっと面白くしよう！」

・子どもたちから、ショーはカーテンが必要と声があがり、友だちと手を繋ぐとアイデアが出た。

・ペープサートを動かすだけでなく、積み木で現世らしく、カーテンの良さがより伝わるように提案してみる。

【発展・広がり】

・「ショーだからカーテンもあったらいいんじゃない？」と一人が提案し、「いいね！じゃあぼくがカーテンになるよ！」と二人で手を繋ぎ幕になりきる。開くタイミングも子どもたちの中で決まっている。「街を作ったらいいかも」と、積み木や橋を持ってきてより世界観が深まっていく。



自己表現

「みんなでショーをしよう！」

・表現参観で、日頃楽しんでいること・好きなことを紹介すること。子どもたちから、それぞれ得意なことがあげられ、男児Aはトイストーリーのショーを見せることになった。

・一人ではできない部分があり、友だちから自然と「手伝うよ！」という声が聞かれた。

【振り返り】

・表現遊び参観が近くに行われる予定だったので、せっかくだったらみんなに楽しんでいる様子を見てもらったどうかと提案すると、今まで人前に出て発表することを苦手としていた男児Aが「見せてもいいよ！」と前向きで、一緒に遊んできた友だちも「手伝うよ！」と幕役やペープサートを動かす役などを協力して行い、友だちの前・保護者の前で披露することができた。



【省察】

クラスの中で、写し絵や塗り絵などを含めた製作活動を楽しむ姿が見られていました。男児Aはトイストーリーが好きで、写し絵から始まったペープサート作りを何日もかけて楽しんでおり、それを見ていた友だちも興味を持ち、同じようにペープサート作りが始まっていきました。子どもたちの中で、ペープサートを用いて曲に合わせ、順番を決めペープサートを出していくことを「ショー」として楽しんでいました。

遊びが展開していくといいなという願いを込めて、背景やカーテン作りなどを援助すると、普段の遊びの中で、友だちと一緒に見せる役・お客さん役になって楽しめるようになっていきました。カーテンを作った後に、空き箱に画用紙を細かく切って入れている子がおり、最後の紙吹雪まで用意し始めたのには驚きました。

人前で発表したり、表現遊することが苦手な男児Aがきっかけで、他の子どもたちも、好きなものが自信に繋がり、友だちと協力し合いながら表現することの楽しさ・面白さを味わうことができたのではないかと思います。



【小学校の先生の気付き】

個々の思いで自己選択、自己決定できる環境が整っていて、ショーというゴールに向けてアイデアを出し合ったり、協働的に活動したりする姿が生まれていますね。表現できた達成感を味わうこともできていますね！

表現遊び参観の為に、何かの作成や発表会に取り組むのではなく、普段の遊びが参観に繋がっているのは、子どもたちにとっても、保育者にとっても無理なくできるので、とてもいいですね！



【事例3】アプローチカリキュラム

5歳児 7月頃～「昆虫博物館を作ろう」

ねらい 「自然や昆虫について知り、深めていこう」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 協同性、自然との関わり、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

【これまでの子どもの姿】

- ・虫が大好きな子が多く、戸外遊びの時は友だちを誘い合い虫探しが盛り上がっている。
- ・「これは何の虫かな」「何食べるのかな」「何の仲間かな」虫の話から友だち同士の会話が増えたり、知っていることを教え合ったりして話が広がっていく。また一方で好きな事には没頭するが、興味の幅が広がっていかないところもある。

【子ども理解】

- ・昨年クワガタや、カブトムシ、蝶々の幼虫を飼ったこともあり、今年もクワガタを飼えることを楽しみにしている子がいる。またクワガタに詳しい保護者に話を聞き、興味が深まっている。

【保育者の願い】

- ・自然に触れたり、様々な動植物に親しみを持ったりする中で、興味の幅も広がってくれたらと願う。

【環境構成】

- ・子どもたちの遊びに寄り添い、どんなことに興味があるのか、知りたい、やってみたいに応えられるよう遊びをすくぞいで見守った。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

昆虫への興味 関心 「虫いないかな？」

- ・興味を深められるように、一緒に昆虫探しをしたり、クラスに昆虫を飼うことで身近に感じたり、親しみを持てるようにしていく。

【きっかけ・芽生え】

- ・「クワガタいるかな」「虫いないかな」と虫探しを楽しむ子が多く、昨年の様子を覚えていたA君が、家庭の近くで捕まえたクワガタを保育園で飼おうと持ってきてくれた。昆虫ゼリーをあげたり、霧吹きを掛けたり、お世話を楽しみながらクワガタに触れるのを楽しんでいる。



遊びへの没頭期

知識の深まり 「いろんな昆虫を作ってみよう！」

- ・大好きな昆虫を様々な形で表現できるように素材や用具を準備する。
- ・一人一人の思いが形になっていくように援助していく。
- ・遊び込むことができる時間や環境の保障をする。

【展開・探究】

- ・図鑑を見て昆虫の写し絵をしたり、折り紙で作ったり、虫づくりも広がっていく。家庭で昆虫博物館に出掛けたB君の話から『昆虫博物館』を作りたいと声がかかる。「昆虫博物館にはどんな物があるかな？」それぞれのイメージを形にしていっていった。図鑑を見て知識が深まっていく。



広がり・実行「昆虫博物館オープンしますー」

・木や図鑑を、
作ったことや博
小物づくりや店
館の開館準備
が進む。

・遊びの見守り、
つぎやきや止
いを受ける。
共感する。

【発展・広がり】

・昆虫がとまる木や蜘蛛の巣を作ったり、虫メガネを作ったり、遊びが発展していく。昆虫博物館ができると「お客さんをお呼びしよう」と看板や、チケット作りにも遊びが広がる。他クラスの友だちを招待した後、「今度はお父さんお母さんをお呼びしよう」と更に広がっていった。



満足・期待「大人気だったね。またやりたいー」

・遊びが盛り上
がったことが
しかったこと
次への意欲に
繋がっていく。

・今度は何屋さ
んにしようかな。

【振り返り】

・昆虫博物館をきっかけに、様々な道具や素材に触れられる機会になった。折り紙が得意な子が折り紙で虫を作り、文字を書くことが得意な子が「スタンプカードやメダルを作ろう！」と自分たちの得意を活かして制作していた。遊びの中で、友だちと話し合ったり、友だちの良さに気付いたりして、一緒に作り上げていく楽しさを感じることができた。



振り返り期

【省察】

昆虫好きな子が多く、普段からクラス内でも昆虫の話題が上がる事が多かったです。図鑑が大好きで、図鑑を見ながら話が盛り上がる事も多く、大好きなことから遊びが広がってくれたらと思っていました。写し絵で、何匹も何匹も虫を作る子がいましたが、そこからの遊びが広がらずどうしたらいいのか…と考えていました。子どもたちの会話の中での話がきっかけで、遊びがどんどん広がっていく様子が、私も見ていてわくわくしました。上手く形にできず、保育士が提案する場面もありましたが、話し合うことのきっかけ作りにもなりました。

また保育室で飼っていたクワガタが亡くなってしまった時、皆で手を合わせ埋めてあげる様子はとても大切に育てていたのだと温かい気持ちになりました。遊びの延長で、最後は保護者も呼びたいと参観日にも博物館をオープンし「大人気だったね！」と満足そうに話す様子は自信に繋がったと思います。



【小学校の先生の気付き】

子どもたちの「やってみたい」という思いが形となるように、素材や用具、時間などの環境が、丁寧に準備されていたことが素晴らしいですね！博物館の成功体験は、次はもっとこうしたいたいという意欲に繋がりますね！

子どもたちの会話から、遊びが広がっていく様子が良いですね！一人一人が得意なことを活かし、協力して作り上げた経験は、自己肯定感の高まり、友達の良さへの気付きに繋がりますね！



【事例4】アプローチカリキュラム

5歳児 2月 「学校はどんなところ」

ねらい 「友だちとイメージを共有しながら共通の目的を見だし、工夫したり協力したりしながら自己発揮する。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 協同性、社会生活との関わり、思考力の芽生え、豊かな感性と表現

【これまでの子どもの姿】

・ままごとやお店屋さんごっこ等の遊びを展開し、子ども同士でイメージの世界を共有し楽しんでいる。また、物作りも意欲的である。

【子ども理解】

・生活や身のまわりのことを遊びに取り入れるようになってきた。
・就学に向けての話題が増え、学校生活への期待が高まってきている。

【保育者の願い】

・想像を膨らませ、友だちや保育者とイメージを共有して楽しんでほしい。
・必要な物を自ら作り出そうとする力を育ててほしい。

【環境構成】

・道具や素材、廃材等の用意
・ままごと棚のレイアウトを柔軟に、固定ではなく用途に応じた移動を許容する。
・就学への関心が高まるような話題を共有する。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

体験の共有 「学校で目の検査をしたよ」

遊びの創出期

・子どもたちのイメージを最大限膨らませ、共有することを楽しくするよう、素材の提供を行なう。

【きっかけ・芽生え】

・就学児健診が行なわれた辺りから、学校の話が挙がるようになってきた。就学児健診にて視力検査をしたという話題から、子ども同士で視力検査が始まる。指で「C」の形を作り互いに当て合う姿があり、保育者がカードを作ると「大きいから見えるよ」「もっと小さいほうがいいよ」と真似をして作り出した。最終的に肉眼では見えないほど小さいサイズを作ったり、学校から病院に場所が移るなど、子ども同士で楽しむ姿があった。



学校への興味・イメージの共有 「学校ごっこをしよう!」

遊びへの没頭期(三十日間)

・就学時健診時想像を共有する機会を持つ。学校のイメージが膨らむよう、それに関する情報を提供していく。

・子ども達がやりたいこと(作りたい・棚を動かしたい)を受け止め、実現できる方法を一緒に考えていく。

・先の展開を予想し、必要な物や遊ぶ物が広がる物を用意しておく。

【展開・探究】

・ままごとコーナーではお家ごっこやお店屋さんごっこが繰り返されているが、視力検査以降は学校ごっこが行なわれるようになってきた。棚のレイアウトを変えて、お家やお店との違いをだしたり、勉強に必要なもの(紙・ペン・鉛筆など)を遊びに持ち込み楽しむようになってきた。
・使わなくなったカレンダーを見て「これいらないの? 壁に貼りたいんだけど・・・」との声があり理由を聞いてみると「だって学校は予定とかかいてあるでしょ」と、時間割をイメージしているようであった。



イメージの具現化「ランドセルをつくろう」

- ・子ども達の遊びに参加して遊ぶ。さらに遊びが、発展する可能性を探り、子ども達の関心や興味があるのかを把握できるようにする。

【発展・広がり】

- ・学校ごっこの中で「勉強するよ」「誰が先生になる？」などと役割を決めて楽しんでいた。その過程で「ランドセルがないから作ろう」「じゃあ今持ってくるね」と紙と紐を組み合わせ必要な物を作り遊びに取り入れる様子が見られた。「お家にランドセルが届いたから、真似っこしたんだ」とイメージを膨らませ、つくりあげることができた。



楽しみの共有 「みんなでつくろう!」

- ・遊びから物作りへ発展し、さらに遊びの中に取り入れられていくことと思われる。

【振り返り】

- ・完成したランドセルを見た他児より、「わたしもランドセル作ってみたい」「どうやって作るの?」と話題になり、「みんなで作ろうよ」と話がまとまり、ランドセル作りをした。



【省察】

幼少期よりままごと等に親しんできたことで、身近な物事を模倣し遊びに反映させられるようになってきたように思います。ままごとというと「家」「お店」のイメージが持たれるが、それに留まらず、その時のテーマを子ども同士で考え、それに合った準備や役割決めを行なうことができていました。

今回は、就学時健診をきっかけに「学校」がテーマのごっこ遊びに繋がっていきました。学校に関する情報を話題にしたり、関連する絵本や紙芝居等を用意するなど、色々な材料(きっかけ)があることで、自分達の望むように遊びを作り上げられるのだと思います。小学校生活をイメージし、学校への期待を持つことができていた様子が、子どもたちの遊びの姿から見られて嬉しく思いました。



【小学校の先生の気付き】

小学校に期待する気持ちを表現しやすい環境を整えていますね。就学時検診での体験をもとに表現することで、気付きが自覚化されたり、小学校での生活のイメージが広がったりしているところが良いですね。



保育者が遊びに参加することで、子どもたちの興味・関心がどこにあるのかを把握し、子どもたちのやりたいことや作りたいことに合わせて、棚を動かしたり、材料を用意したり、とても柔軟に対応されているのですね!



【事例5】アプローチカリキュラム

5歳児 11月 「1本の縄からつながる遊びの世界」

ねらい 「友達と試行錯誤したり、思いを伝え合ったりしながら、目的を実現する喜びを味わう」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 健康的な心と身体、自立心、協同性、思考力の芽生え

【これまでの子どもの姿】

- ・ 戸外遊びを好み、どうしたら戸外遊びの時間を長く取れるか検討したり、夕方積極的に戸外遊びをしたりする。
- ・ 近所の公園にブランコがあり、散歩で遊んだことがある。

【子ども理解】

- ・ これまで、綱引きやリレーなど道具を使う遊びを経験したり、散歩先での遊具を利用したりする経験を重ねてきた。
- ・ 友達のしていることに興味を持ち、意見を出しながら遊びを進めている。

【保育者の願い】

- ・ 自由な発想で遊びを展開し、友達とのやり取りの中で新たな発見をしてほしい。

【環境構成】

- ・ 子どもの手に取りやすく、片づけやすい遊具の環境を整える。
- ・ 子どもがしようとしていることに対して大人の意見を伝えるのではなく、危険のない範囲で見守り、思いを形にできるようにしている。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

友達・縄への関心 「縄跳びブランコ」ができた」

- ・ 子どもが試行錯誤して体得した技術を友だちや年下の子に伝えていく事を見守る。
- ・ 縄の使用について従来のように危ないからと使用方法を制限するのではなく、職員間で遊びの姿、話し合いの様子、危険のない限り子どもの発見や発想を認め、共通理解する。

【きっかけ・芽生え】

- ・ 結ぶ、つなげる、引っ張る等の技術を使い、縄跳びブランコを始める。
- ・ 「やりたいの？ 結んであげよう」「長いのと短いのどっちがいい？」と、周囲の友だちや年下の子にやり方を伝える様子が見られる。
- ・ 「ぼくもやりたいな！ どうやって結ぶの？」と、友だちに進んで関わったり、「こうやって・・・」と試行錯誤しながら自分で考えたりして、「結べた！」「できた！」と喜びを感じていた。



遊びへの没頭期

「つづを教える」「つづやってやるよ」

- ・ 子どもの自発的な遊びが探求へと発展する様子、縄の素材を知り友だちと試行錯誤しながら展開していく姿を見守る。
- ・ 自分で発見した喜びを友だちに伝え共有し、保育士や友だちに認められる体験をしながら、自信のよき自信をもって行動できるようにしていく。

【展開・探究】

- ・ まだ縄跳びブランコができない子は「足かけてどうやるの？」と、できる子に問いかけ、できる子は「片足をかけてゆらゆらするんだよ」と、こつを伝え、子どもたち同士の関わりが深まっていく。
- ・ 「わーすごい！」「できたね！」と、保育士や友だちに認められ、嬉しそうな様子が見られる。
- ・ 「こうして足を高く上げると楽しいよ！」「逆上がりができるようになりそう！」「入れて！」「いいよ！」「順番にかわりっこしよう！」と、自分が見つけた遊びを友だちに伝えたり、友だちが興味をもってくれることが、自信につながっていく。



遊びの変化「縄電車をやろう！」

- ・子ども同士で縄を使い次の遊びを展開しようとしている。
- ・縄を電車に見立て、転ぶことは立って、転ぶことなど、うまく走っている方を見守り共感する。

【発展・広がり】

- ・鉄棒での縄遊びから、縄電車に遊びが発展していく。
- ・「みんなで走ろう」「転ばないようにゆっくり走ってね」と、意見を出し合い、みんなが納得する方法で遊びが進んでいく。



環境・時間の保障「おやつを食べたらまたやろう」

- ・今後、共通の目的が実現する喜びが、環境や時間を保障する。

【発展・広がり】

- ・昼食時間が近づき、片付けなければならない時間が近づくと「もっとやりたかったな。」「またおやつが終わった後に外で遊ぼう。」と互いの思いを伝え合いながら遊びを終え、満足している。

振り返り期

【省察】

日頃から子どもの主体的な活動「やりたい！」が実現するよう、道具を自由に使い想像力を広げ、遊びを発展させていく過程を大切にしているため、一本の縄から次々と遊びの広がりが見られていました。子ども同士で工夫し協力し合うことで、協同性が育まれていたように思います。



【小学校の先生の気付き】

モノを使いながら思う存分試行錯誤できる環境、友達と共に考えたり、教えあったりできる環境が整っているからこそ、子どもたちは技能を高め、さらには遊びを発展させ、達成感をもつことができているのだと感じます。

縄跳びで「跳ぶ」以外の遊びを考えたのですね。職員間で話し合い、危険のない限り、使用方法に制限を与えず、発想を認めることは、子どもたちの遊びが広がりやすいですね！



【事例6】アプローチカリキュラム

5歳児 9月 「オクラが宇宙まで届くかも！」

ねらい 「夏野菜の栽培を通して、野菜に興味・関心を広げる」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、言葉による伝え合い

【これまでの子どもの姿】

- ・自分が経験したことや知識を、保育者や友だちに話し共有する姿がある。
- ・興味を持ったものを、図鑑や本で調べて知識を深めようとする。

【子ども理解】

- ・気になった事や興味のある物をじっくりと調べられる経験を重ねてきている。
- ・調べた物を友だちと共有したり、紙にまとめたりして友だちや保護者に見てもらえる環境がある。

【保育者の願い】

- ・興味・関心を広げ、知識を深めていくことを楽しめると良い。

【環境構成】

- ・定期的に観察に行ったり、じっくりと考えたり、調べたり出来る保育時間の確保をする。
- ・図鑑や本を揃える。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

野菜への関心 「どんな野菜を育てよう」

- ・子どもの言葉に耳を傾け、興味・関心を高めたいけるような話し合いを行う。
- ・畑の周りの草花や虫探しをしたり、畑を身近に感じられるようにした。

【きっかけ・芽生え】

- ・年長児に進級し、きりん組でやりたいことの中に、子ども達が「野菜作り」を上げた。どんな野菜を育て、食べたいのか話し合い、何種類か出た野菜の中にオクラがあった。野菜を植え、育て観察していく中で様々な発見や気づきが生まれ始めた。



遊びへの没頭期

主体的な活動 「調べてみよう！」

- ・子どもが主体的に活動し学んでいけるよう見守り、必要に応じて助言を行う。
- ・図鑑や本で調べられるように保育室の本棚の見直しを行ったり、補充を行う。
- ・じっくりと調べられるような保育時間の保障

【展開・探究】

- ・野菜によって葉や花、実のなり方等の違いに気付き、疑問を持つ子が出てきたり、子どもなりに考えたことを友だちに共有したりしていた。
- ・考えてもなかなか答えが出ない事は、図鑑で調べ答えを見つけようとする姿も見られ始めた。日々の観察の中で「オクラの他にも、ジャガイモの花も白いんだって」「この花が落ちたら、実が出来るんだよ」と図鑑で得た知識を友だちに伝えたりしていた。



更なる気付き・実験・共有「試してみよう！」

- ・子どもの気づきや発見を受け止め、興味を広げていけるように関わる。
- ・子どもならではの発見や意見をクラス間で共有できるように話し合いの場を設けた。
- ・廊下などに掲示する事で、保護者とのコミュニケーションが取れるようにした。

【発展・広がり】

- ・葉に隠れて収穫が遅れた野菜が、大きくなって発見されるとさらにじっくりと観察したり、大きさに喜ぶ姿が見られた。大きくなり、空に向かって真っ直ぐ伸びるオクラを見て「このままにしたら、宇宙まで伸びるんじゃない？」「たしかに！実験してみよう！」と子ども同士話し合い、1つだけ収穫せずに残して観察する事にした。
- ・観察していくと、オクラが黒くなり始め、割れて中身が見えていることに気付いた子がいた。中身がどうなっているのか気になり、保育室に持ち帰り中を観察すると、様々な意見や感想が出て、子ども同士で発見を共有したり、まとめて保護者にも見てもらえるようにしたりした。

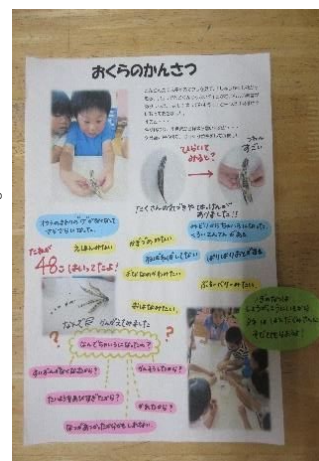


他者へ伝える「これがぼくたちの実験です！」

- ・興味を持ち調べていくにつれ、様々なことに興味・関心を広げていくと思われる。
- ・できた達成感や喜びを感じ自信に繋げていく。

【振り返り】

- ・自分たちの「オクラの実験」をまとめたことで、他児に見せたり、嬉しそうに保護者に伝え、満足する様子が見られた。
- ・自分たちの提案が形となり、一人一人が達成感を味わい自信につながった。



振り返り期

【省察】

年度初めに「前のきりん組みたいに野菜を育てたい」という意見がでて、何を育てたいのか話し合いをしました。保育参観で保護者の方と一緒に野菜の苗を植え、毎日、育てる中で様々な発見や気付きが生まれていきました。その都度図鑑で調べ、収穫したものを食べることで、興味が薄かった子も関心を持ち始めていきました。「実験」という言葉に魅力を感じ、さらに意欲的な姿へと変わっていったように思います。実際にオクラを収穫し、中がどうなっているのかクラスで話し合う場を設けたことで、気付きのまとめを保護者にも嬉しそうに話す場面が見られ、自信や達成感につながっていきました。

保育室に、子どもの姿や季節に合わせた図鑑を用意しておくなど、日頃から、調べることの楽しさを感じられるように関わっていくことも大切だと感じました。



【小学校の先生の気付き】

「どんな野菜を」と具体的なゴールイメージをもたせたことが探究の原動力になっていますね。また、比較しやすい環境を整えたことで気付きが高まっていますね。「宇宙まで」というすてきな感性がワクワクさせてくれます。

子どもたちの「育ててみたい！」「やってみたい！」の声を大事にしていますね。子どもたちの興味・関心に応じて、本棚の中身の見直しや補充は、主体的な学びの環境整備として参考になります。



【事例7】アプローチカリキュラム

5歳児 9月 「水たまりに葉っぱの船を浮かべて」

ねらい 「身近な自然に触れ、興味関心を広げ、工夫して楽しむ」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 協同性、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、言葉による伝え合い

【これまでの子どもの姿】

- ・自分が経験したことや知識を、保育者や友だちに話し共有する姿がある。
- ・興味を持ったものを、工夫したり、試してみようとする。

【子ども理解】

- ・雨上がりの園庭で水たまりを見つけると、水たまりの水を使って泥団子を作ったりと楽しむ姿があった。
- ・様々なことに疑問を抱いたり、探求して遊びを発展させていくことを楽しんでいる。

【保育者の願い】

- ・興味をもったものをじっくりと楽しみ、考えたり試したりして満足感や充実感を味わってほしい。

【環境構成】

- ・水たまりや草花など、子どもが自由に手に取ったり触れられる環境がある。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

自然物への興味関心「浮かべてみよう！」

- ・遊びに制限をかけ過ぎずに見守り、興味・関心が広がるようにする。

【きっかけ・芽生え】

- ・雨上がりの園庭の端に大きな水たまりを見つける。A児が「笹船を浮かばせようよ」といい、近くにいた数人で笹探しが始まった。中々見つからないと、B児が「この葉っぱいいんじゃない？」と足元にあった草を水たまりに浮かばせた。笹に変わる葉っぱ探しが始まり、落ち葉や草を探して水たまりに浮かべていた。



探究「試してみよう！工夫してみよう！」

- ・子どもの自然な発想や気付きを受け止め、試してみようという方法を考える。

【展開・探究】

- ・浮かべた葉が水たまりの向こう側まで行くものもあれば、そうでないものもあり、息を吹きかけたり、手で仰いだりして風を送る姿が見られた。途中で沈む葉があると残念がっていたので「何で沈むものと、沈まないものがあるのかな？」と投げかけてみると「大ききかな」「沈んだ船は、葉っぱが濡れてたんだよ」と観察し、考察している子もいた。



遊びへの没頭期

試行錯誤「なぜ・どうして・もう一度やってみる」

- ・遊びを発展していくことができるような、保育時間の確保を行う。

【発展・広がり】

- ・長い間浮かんでいる葉に「荷物乗せちゃおうよ」と石を乗せ始めた子がいると、周りも真似して乗せ始めた。上手に乗せられると、もう一つ、さらに一つと数を増やしていったり、沈むと大きさを替えたりしていた。
- ・「いくつ乗せられるか競争しよう」と石積み競争になると、葉の形や大きさ、石の形も考えて工夫していて、繰り返し試行錯誤する姿が見られた。



意欲「教えてあげよう・次もやってみよう」

- ・興味を持ち調べていくにつれ、様々なことに興味・関心を広げていくと思われる。
- ・できた達成感や喜びを感じ自信に繋がっていく。

【振り返り】

- ・雨上がりの日には水たまりを楽しみにして、どうやって葉を浮かばせようか、どうしたらたくさん石を乗せられるのかと試行錯誤している姿や、考えた事や気付いたことを共有する姿があった。
- ・試したことや工夫したことを実践する中で、できた喜びを感じたり、もっと試してみたいという意欲へと繋がっていった。



【省察】

雨上がりの園庭で水たまりで遊んだり、身近な自然に触れあって遊んできたことで、工夫したり、考えたりと子どもたちなりに試行錯誤する姿が見られるようになっていきました。

遊びを制限しすぎず、見守ることで子どもの自由な発想が生まれ、遊びの広がりが見られたのだと思います。日頃から、子どもの「やってみたい」という気持ちに目を向け、制限を掛け過ぎずに関わることで、様々な「やってみたい」が表現できるようになると考え、その意識を大切に保育をするように心がけています。



【小学校の先生の気付き】

考えた事や試してみたい事を実現する方法を一緒に考えていくことは、学習の主体者である子どもたちの学びの伴走者としての大切な姿だと思います！

自由に試行錯誤できる環境の確保・時間の確保が、子どもたちの遊びの広がりや、思考の深まりを生み出すんですね！遊びに没頭できる姿こそ、学習者の目指す姿ですね。



【事例8】アプローチカリキュラム

5歳児 2月 「書いてみたいな」

ねらい 「文字への興味・関心。表現方法の一つとして遊びに活用していく」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 協同性、思考力の芽生え、数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

【これまでの子どもの姿】

- ・文字への関心が高まってきて、持ち物への記名や紙に書こうとする姿がある。
- ・絵本を読む際には、絵を眺めるだけではなく文字を読もうとする姿も見られている。

【子ども理解】

- ・保育者に文字を書いてもらうという姿勢から、自分で書いてみようとする姿勢に変わりつつある。五十音表を見て模写すること、書きたい文字を探すこと等、手段を身につけ始めている。
- ・言葉で伝えることと、文字に書いて伝えることの違いがわかり、その特別感や楽しさを感じられるようになってきた。

【保育者の願い】

- ・文字に対して興味や関心を持ち、読み書きしようとするこで思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わってほしい。

【環境構成】

- ・五十音表の用意、掲示。
- ・自由に描ける紙やペンの用意、補充や点検。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

文字への興味「書いてみよう」

- ・子どもたちの手の取りやすい場所、目に入りやすい場所に五十音表を掲示。その近くに紙やペン・鉛筆等を設置した。
- ・持ち物や作品への記名を促したり、記名が難しいときには、書き方を知らせたり、書いてあげたりした。

【きっかけ・芽生え】

- ・進級当初から保育室に五十音表があり、各々が使いたい時に、手元に用意する姿があった。作品に記名したり、紙に絵や文字を書いたのは喜ぶ様子があったが、五十音表の数が限られていたりサイズが小さいことで十分に書けない姿もあった。
- ・サイズの大きい五十音表を用意すると友だちと頭を突き合わせながら文字を書く姿が見られるようになった。



遊びへの没頭期

イメージの具現化「立札をつくらう！アさがお」

- ・植物の種を植えるにあたり、どこに何を植えたかわかるように、立て札づくりの案があがる。適した素材を用意する。
- ・戸外で書き始めた際、五十音表はなくても書くことはできたが、「あ」は「ア」、「わ」は「ワ」と書きやすい方に変換する様子があったが、許容しながら進めた。

【展開・探究】

- ・園庭でのこと、今年度育てた花の種を植えることとなった。数種類あり、どこに何を植えるべきか悩んでいると「名前をつけた方がいいよ」「今からペンを持ってこようか？」との声が挙がり、立札を作ることが決まる。牛乳パックや割り箸を使用した立札作りが戸外にて始まる。
- ・「何の種だっけ？」「あさがおだよ」「『あ』は難しいからカタカナでも良い？」五十音表はなくても書けるようになってきたが、書き易さ書き難さがあるようで、ひらがなとカタカナが混在した文字になっていた。



- ・英語や数字などにも関心を寄せる姿があり、五十音表と同様に作成・掲示する。

【発展・広がり】

- ・次第に自由に書けるようになってくると、「○○○ってどうやって書くの？」と聞き、「上に行って…」「そこでくっとなって…」と子ども同士で教え合いながら読み書きをする姿が見られるようになり、ひらがなとカタカナが混在することが少なくなる。絵本作りをする児もいた。
- ・「A・B・C…っていうの書ける？」と、英語や数字などにも関心を寄せる姿や、文字と音の概念が結びつくようになり、しりとりなどのことば遊びをする姿も見られた。



- ・素敵な作品、楽しい出来事や面白い発見を、周知や掲示を通して子どもたちと共有できるようにしていく。
- ・子ども同士で刺激を与えあい、新しい遊びに繋がるようにしていく。
- ・子どもの様子に応じ、イラストだけでなく文字を中心とした掲示の仕方に移行していく。

【振り返り】

- ・文字への関心や、遊びの中での文字の活用は個人差が大きいですが、友だちが文字を駆使して作った絵本や作品などを、周知したり掲示したりすることで、他児の関心も高まっていた。
- ・しりとりなどの言葉遊びを身近に取り入れるようにしていった。
- ・イラスト等が中心だった掲示物も、文字によるものに移行していった。



【省察】

年度始めは識字率が低く、文字にあまり関心がない様子でした。

遊びに文字が使われはじめた瞬間を見逃さず、それを皮切りに少しずつ環境に反映させることで子どもたちの遊びに変化が見られるようになってきました。

その時々の子どもの様子に合わせ環境を変えていくことで、子ども達の中に文字が定着してきたように思います。大人に教えを乞うことだけが手段ではなく、五十音表を見る、真似して書く、友だち同士で教え合うこと等、疑問に対し自分で解決に導いていけるようになったことも大きな成長（収穫）です。



【小学校の先生の気付き】

大人側が時期を決めるのではなく、子どもたちの成長のチャンスとなりそうな機会・きっかけを見逃さないようにすることで、子どもたちにとって最適なタイミングで興味をもつことができますね。

「文字」というものを教えていくのではなく、少しずつ環境に取り入れたり、ひらがなとカタカナが混在していても受け入れて認めたりすることで、自然と文字への親しみをもつことができますね！



【事例9】アプローチカリキュラム

5歳児 2月 「世界に一匹のペット作り」

ねらい 「自分のイメージを表現し、友だちと一緒に遊びを発展させる」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 豊かな感性と表現、言葉による伝え合い

【これまでの子どもの姿】

・空き箱など廃材を使った自由制作が盛んで、ハサミやテープを用いてバッグやパソコンなどを作ることを楽しんでいる。

【子ども理解】

- ・園舎周りの団地にいる猫や散歩中の犬などを見て、かわいいねと言葉をかわしている。
- ・友だちのしている遊びに興味を持つ子が多く、遊びを発展させる姿が増えている。
- ・ままごとで役割を持って遊んだり、見立て遊びのイメージを友だちと共有している。

【保育者の願い】

・工夫して制作を行い、自分の作った作品、友だちの作品共に大切にすることが育って欲しい。

【環境構成】

- ・子ども達が自由に使える廃材やハサミ、ペンなどがワゴンに置かれ、手に取りやすい環境。
- ・やりたいと思った時に取り組めるよう、時間を決めずに遊ぶことができる。

遊びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの遊びの様子や見えてきた育ちの姿

遊びの創出期

廃材遊びへの興味・関心 「犬になりそう」

- ・子どもが材料を手に取りやすい環境を整える。
- ・保育者も一緒に遊びに参加し、気づきに共感していく。

【きっかけ・芽生え】

- ・以前に、クラスでぐり引きをするための箱を保育者が制作していた。
- ・廃材を使って子どもと保育者が廃材遊びをしていたときのこと。「何か動物が作れそう」「何がいいかな？」と一緒に考えていく中で、箱を切って組み合わせると犬の頭に似た形ができた。



遊びへの没頭期(三日目・七日間)

他児への興味・創意工夫 「わたしもやりたい！」

- ・遊びが始まってからは子ども達の遊びの発展を見守る。
- ・子どもが気付いたことを、周りの友達に共有しながら遊びが進められるようにざりげなく援助する。
- ・興味はあるが制作が難しい子には、個別にやり方を知らせ、支援する。

【展開・探究】

- ・「どうやって作ったの?」「私もやりたい!」と子ども達が集まり、犬の体、足、耳など必要なものを考え、自分なりのペットを作る。
- ・「リードをつけてお散歩したいね」との言葉から、首輪と毛糸の紐をつけてクラス内を散歩することを楽しんでいた。



実物に近い環境や餌作りの工夫「散歩したい」

- ・途中で廃材が足りなくなってしまうため、隣のクラスや事務所に声をかけて子どもと一緒に集める。
- ・完成してからも飾りをつけたりして工夫を凝らしている姿を見守り、より良い環境(遊び、飾るスペース)を再設定する。

【発展・広がり】

- ・お世話を始めると愛着を持ち、名前をつけて首輪に書いていた。
- ・「遠くまで散歩に連れて行ってあげたい」と園舎内のクラスを回った。
- ・餌とミルクを作ってあげるため、パックを細かく切る中で、一方向に切った後、向きを変えるとすばやく切れることに気付いた。



友だちとの気付きの共有「好きなところ」

- ・散歩をしながら、クラスの友だちだけでなく、年下の子や園の職員にも見てもらえる機会を持つ。
- ・全体での発表が苦手な子も、個別に声をかけてもらうことで、工夫したところを話し、自信をつけていく。

【振り返り】

- ・クラスの活動の中で、サークルタイムという時間を設けている。その中で自分の作った作品などを発表できる環境を整えたところ、今回のペットを連れてきて、「頑張ったところ」「一番好きなところ」を発表していた。発表を聞いた友だちが、共感したり自分も真似をしてやってみようとする姿が見られた。



【省察】

今回の事例は大人が予定していた活動ではなく、自由遊びの中で広がりが見られていったものである。保育者の想像を超えて子どもが集中し、遊びの持続が見られたことから、自由遊びの時間を長く取り、子どもの意欲を受けて、朝晩の散歩の時間を設けていくようにした。

活動の中で、硬い廃材の扱い方を学んだり、よりイメージに近づけて完成させるにはどうしたらいいのかを試行錯誤する力、友だちと言葉を交わしてやりとりを深める力など、様々な育ちが感じられた。

犬だけでなくキリンを作る子もいて、友だちの作った物を認めたり、自由に発想を展開していた。

餌を作る場面では、犬がミルクを飲みやすいように側面に工夫して穴をあけ、ストローのようにさしたり、餌がこぼれないように蓋を作る工夫も見られていた。このように、廃材から自分だけの作品を作り、遊びを展開させていく姿は、思考力の芽生え、豊かな感性と表現、言葉による伝え合いなどの複合的な育ちが感じられる。



【小学校の先生の気付き】

子どもたちの意欲に応じて、時間や空間を柔軟に変えていくことは、遊びの広がりや深まりを支えることになりそうですね！一つの活動の中で、さまざまな育ちが見られ、主体的な学びの大切さを感じます。

自分の作品を見てもらえる機会をつくったり、他の職員から声をかけてもらうことは、自己肯定感の高まりにもつながりそうですね。個別の支援やさりげない援助によって、どの子どもも楽しめる環境をつくっているのですね。



【事例1】スタートカリキュラム

1年生 4月 生活科 「がっこうとなかよし」(全12時間)

発揮が想定される幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 規範意識の芽生え 自立心 思考力の芽生え
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 協同性 豊かな感性と表現 社会生活との関わり

【これまでの子どもの姿】

- ・学校にはどのようなものがあるのかについて関心をもっている。「探検したい」という思いを十分にもっている。
- ・入学して2日目に自教室探検をしているが、発見をする姿、何に使うのかを予想する姿が多く見られた。

【子ども理解】

- ・幼稚園や保育園にあったものはわかるが、なかったものについてはわからない。経験をもとに予想することはできる。(思考力の芽生え) 平仮名を読める子どもは多い。(文字への関心・感覚)

【環境構成】

- ・初めは範囲を限定し、子どもの思いや願いをもとに、自教室から同心円状に空間を広げていけるようにした。
- ・初めはモノに関心をもっているの、自由にモノと触れ合えるように、特別教室を使用していない時間帯に設定した。
- ・最初の探検から自由に探検できるように、教室に戻ってくる時刻のみを指定し、それ以外のルールは設けなかった。

【知識・理解】

- ・学校での生活は、様々な人や施設と関わっていることが分かる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達などについて考える。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・楽しく安心して学校生活を送ろうとする。

学びのプロセス

先生の思いや関わり

こどもの学びの様子や発揮された姿

第一次・三時間

学習課題や学習計画を共有し、単元の見通しをもつ

- ・園での経験の想起や体験との関連付け
- ・前単元での気付きや振り返りを想起させる発問や掲示物の提示
- ・主体的な学びとなるような「学習課題」の設定
- ・学習課題や学習計画の視覚化

【見いだす】

- 決められた時間で学習グループごと自由に探検する。【規範意識の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】(写真1)
→自教室(東校舎2階)探検の延長として東校舎1～3階に限定。モノと十分触れ合えるように特別教室が使用されていない時間に設定。
- 十分に見付けられなかった場所を選んで個人で探検する。【自立心 思考力の芽生え】
→ヒトにも関心が向くように、特別教室が使われている時間に設定。
- 階ごとの発見マップをまとめ(写真2)、次の探検への見通しをもつ。【協同性 豊かな感性と表現】
→付箋紙で色分けすることで「モノ」「ヒト」「コト」のどれが十分か十分でないかを可視化し、子どもが判断して見通しをもてるようにする。

写真1
教室の名前を
探す姿



写真2
発見したことを共有する姿



第二次・6時間

- ・主体的な学びのための環境構成
- ・課題解決のための、自分自身の解決方法を考える時間の確保
- ・児童の意識の流れを重視した展開
- ・気付きを自覚させたり、関連付けたりするための教師の言葉掛け
- ・児童の気付きに対する共感や称賛

【自分で取り組む】

- 付箋紙から十分でなかったことを明確にし、再度探検をする。【協同性 社会生活との関わり】
→国語科でインタビューや入室の仕方を知り、「ヒト」と関わる姿を増やす(写真3)。
- 発見したことをマップで共有し、次の探検への見通しをもつ。【協同性 豊かな感性と表現】
- 西校舎1～3階を探検し、発見マップにまとめる。
【規範意識の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 豊かな感性と表現】
→東校舎での経験を生かしたり、東校舎の様子と比べたりしながら気付きの質を高めていく。
- 自分で課題を決め、1～3階を探検し、発見マップにまとめる。【自立心 社会生活との関わり 思考力の芽生え】
→導入で何をしたいのかを伝えさせる。

写真3
事務室の先生にインタビューする姿



・対話を生かした
解決の場の設定

【広げ深める】

○4階を探検し、発見マップにまとめる。【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 豊かな感性と表現】

→「学校は4階までであるよ。行ってみたい」という思いから4階へ範囲を広げ、これまでの経験から何がありそうかを予想させてから探検させる。

○屋上を探検し、次の探検への見通しをもつ。【規範意識の芽生え 思考力の芽生え】

→鍵がかかっている理由を考えさせる。屋上から見える景色から校舎外へ目を向けさせる。

○なかよし広場やまが玉池を探検し、マップにまとめる。【自然との関わり】(写真4)

写真4マップ完成



・活動時の写真や
作品を準備し、活
動時の様子や気
持ちが思い出せ
るようにする。

・身に付いた力を
振り返る時間の確
保

・振り返りの視点の
提示

・個や集団への称
賛

【まとめあげる】

○探検で発見した最も「お気に入り」「なかよし」「不思議」な場所やヒト・コトを決め、より親しくなれるように取材する。【自立心 思考力の芽生え】(写真5)

→「どうして選んだのか」「その場所やヒトとどのような関わりをしているか、していきたいか」などの視点をもたせる。

○取材したことを友達に報告できるようにまとめる。

【社会生活との関わり 豊かな感性と表現】

○前時でまとめた場所やヒト・コトを友達に報告する。

【協同性 豊かな感性と表現】(写真6)

写真5
昼休みも自主的に取材する姿



写真6
報告し合う姿



【省察】

学校探検に限らず、入学式当日から「新しい友達との人間関係の形成」、「学校の施設に慣れる」、「年長パワーを発揮できる」を3本柱としたスタートカリキュラムを、園の先生の意見を取り入れながら計画、実施することが大切だと感じました。

子どもの思いや願いを見取りながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮しやすい環境構成を整えることが、ワクワクする「探究心」や生活科の資質・能力を育むことにつながるのだと思います。

新しい友達との間に自己存在感を実感することができ、学校探検の初めから自己決定の場が保障されており、困ったときには励まし、支えてくれる友達や先生がいるという心理的安全性が保障されているからこそ、どの時間であっても一人一人が自らの力を発揮し、高め合えることができたのだと思います。



【幼稚園・保育園・子ども園の先生の気付き】

新しい友達と思いを伝え合い、自由に探検することで、学校が自分の居場所となっていくのですね。探検という自己発揮できる活動を通して、今後の学校生活へ期待が持てるようになっていくのですね。

小学校の教科に「幼児期における遊びを通した学び」がどのように繋がっていくのかが具体的にイメージできました。子どもの主体性が引き出され、自由に探索や探求できる場づくりは、園での活動と通じていますね。

